

苗場山山行記録



雷清水から山頂へ

山頂

ミヤマオダマキ

目的地	苗場山(祓川コース)	期日	平成20年7月5日(土): 晴れのち曇り
山行人	五十嵐宏之・笠原正雄・伴場ちづ子・増田(男性)	特記	下山後、恒例の伊香保へ

地点名	時刻	記 事
与板発	4:30	小千谷から高速。6時を過ぎて湯沢ICを出る。
三俣スキー場 P	6:30 待合せ	最初に着いた。五十嵐について埼玉2人が到着。一台で登山口へ。
登山口 P	7:00	Pの右手に和田小屋への舗装道がある。林道を進み和田小屋手前で進入禁止となり、駐車スペースに20数台あり。曇りの予報が晴れとなり、暑い中歩き出す。
山道に入る	7:30	Pから約20分の車道歩きで小屋。そこからゲレンデに付けられた道を進みゲレンデ右手の山道に入る。マイヅルソウを撮る。一夫婦を追い越す。
コーヒータイム	7:50~7:55	ブナの下で休む。ヒロタンが早速採ったタケノコの皮をむく。歩き出すとすぐにツマトリソウが多くある。単独若者が高速で登って行く。5分後6合目標識。
下ノ芝	8:20	7合目。通過。日差しを受けて暑い、ごく僅か風を感じる。
残雪を見る	8:30	登路の左側に残雪があった。イワカガミ多数。
リフト最高点	8:45	右手樹林越しにかぐらリフトの終点を見る。
木陰で休む	8:50~8:55	日差しを避けて休む。タケノコ採りのヒロタンが遅れて到着。2本杖歩行へ。5分後、中ノ芝を通過。チングルマを撮影。この後、腰のタオルを落とした。
上ノ芝	9:10	通過。木道が続く。7分後小松原分岐。タテヤマリンドウ。ワタスゲ
神楽峰	9:30	通過。下に田代湖が見える。10分後富士見坂の標識。ゴゼンタチバナ
雷清水	9:40~9:45	水を汲む。虫がややうるさい。薄荷入りの虫よけスプレーを使う。一休みで出発。
9合目通過	10:10	山頂へ向かう鞍部に「お花畑」との表示あり。モミジカラマツが多く咲く。ハクサンチドリ、ミヤマオダマキ、ナエバキスマレ等写真を撮りながら進む。
山頂ランチ	10:50~12:30	山頂小屋手前の木道は大部分雪が覆っている。一度小屋まで行き、左に降り、ケルンの付近の木道テラスでランチ。ヒロタンは焼肉、俺は麻婆豆腐を作る。採りたてのタケノコも入れる。後半から傍に来た若者を呼び込んで5人で過ごす。
雷清水	1:15	山頂直下で、一度小屋へ立寄ったtamoさんと待ち合わせ場所が食い違って15分程ロスタイムする。鞍部に下ってからタケノコ採りのヒロタンは先行下山する。
神楽峰	1:35	登り返しで一汗かく。この後、登り返しは無い。5分後田代原ゴンドラリフト分岐。
顕彰碑	1:45	顕彰之碑/松木喜之七:明治30年生/酒井由郎:明治32年生 稚に駒形十吉書
タオルを回収		中ノ芝上の自然保護標柱の上に落としたタオルがかけてあった。回収。
ツアー登山者	2:00	多くの登山者が登って来たが、ここで更に大団体がやって来た。20数人隊に続いて近畿日本ツーリストのツアー集団。圧倒的に女性が多い。
下ノ芝	2:25	通過。タケノコ採りのヒロタンに追付けず、最後まで3人で歩くこととなった。
休む	2:40~2:50	登路の広い所で休む。この後、山頂泊と言う夫婦とスライドするが、歩く様子から見ると、登頂は薄暗くなるであろう。覚悟しているようだった。
和田小屋前	3:15	小屋前の引水ホースから勢いよく水が出ている。タンクに汲む。2人は先に行く。
登山口 P	3:40 着	水汲み後下り始めたが、途中でストックを置き忘れたことに気付き、登り返して取りに戻る。2人より10分遅れた。ヒロタンは既に着替えを済ませスッキリした顔をしていた。三俣Pに戻り、ヒロタンと増田さんはリゾートマンションへ。tamoさんは寄居へ帰宅。俺は伊香保へ向かう。

碑文…<顕彰之碑>「両氏は越後長岡の人」昭和5年4月スキーによ留 苗場山初登頂し この山を世に紹介 後進を指導された偉業を讃え之を建つ 昭和52年10月16日 松木喜之七 酒井由郎 顕彰会

数回登っているのだが、記録を残すようになった10年前からの中にはこの山名は無い。全く久しぶりである。また、山頂で好天となったのははじめてのような気がする。ヒロタンからの誘いが入って、丁度伊香保会前の好タイミングで向かうことが出来た。俊足tamoさんに引っ張られて、高速山行であった。

